

Person of the Month

誰もが、様々な場所で経験した3.11。毎回色々な「この人!」をクローズアップし、3.11後の生き方を紹介します。

音楽を楽しみながら未来のエネルギーを考える…。このスタイルはベターデイズプロジェクトが2012年から3年に渡って継続開催しているイベント「ライブ&セミナー」の基本コンセプトです。これまでの18回(当該発行日現在、実に多くのアーティスト/ミュージシャンにご出演戴いてきましたが、最多出演のお一人が今回お話を伺ったモモイヒトミさんです。

消化できなかった震災と原発事故

独学でピアノを覚え、学生時代からオリジナル曲を書き始めたというモモイさん。教師を目指した時期もありましたが、レコード会社でアルバイトをはじめた頃から音楽活動の比重が高まってきました。バンドやユニットで活動した後、'09年からソロ活動を開始。モモイヒトミとして1枚目のCD制作に取り掛かり、最終作業を行っていた時に東日本大震災が発生しました。

「多くの人がそれがそうだったように、私も漠然とした罪悪感のようなものに襲われました。自分は音楽制作していて良いのか?という感情です。加えて電気を使うことにも抵抗を覚えたのだとか。「震災と福島第一原発の事故」と全く関係なく地球は回り続けています。私たちが全く予期しない自然災害は今後も発生するでしょう。そこから何を学び、教訓をどう活かしていくか。それが大切だと思います。」

モモイさんの言葉通り、地震も頻発し、台風やゲリラ豪雨の被害も増えてきている昨今。災害時に備えたライブラインの見直しやマニュアルづくりも大切ですが、その一方、我々人間が地球に「敵」と見なされないよう、個々のライフスタイルを見直していくと、やはり一人ひとりの意識が問われているように感じられた取材でした。

取材 / Indy 横山 撮影 / 小森学



FM ラジオでお馴染みのDJ タック・ハーシーさんが語る「音楽のチカラ」

インパクトは大きかった…。何故こんなことになったのか、自分でできることはあるのか、まったく消化できませんでした。被害の全容と原発事故の状況が少しずつ明らかになればなるほど「簡単に総括できるような事態ではない」という思いが増していきました」と言うモモイさん。震災から一年八ヶ月が経過した時、ベターデイズプロジェクトが「ライブ&セミナー」をスタートさせ、そこにへ出演することになりました。

自ら発信をする立場に

「深刻になりすぎず、原発について食卓で話せるように、まずは正しい知識を身につけよう…。ベターデイズプロ



ジェクトのそうしたコンセプトに共感したんです。「ライブ&セミナー」ではバンドや弾き語り、ユニットなど様々な形態のアーティストが出演されていますが、モモイさんの音楽性は「エレキトク歌謡」というキャッチコピー通り、多彩なアレンジを駆使したひととき、多様な個性を持つもの。「初めて聴いてファンになった」というお客様もたくさんいらつしました。

その後、自身のライブの際、曲間で原発に関するお話を切り出したモモイさん。「こんなことを言うのはモモイらしくないかもしれませんが、先日セミナーを聞いて、電気エネルギーについて考えるようになりました。」

筆者はネット中継されたライブを聴いていたのですが、モモイさんのこうしたお話を、来場者の方々が好意的に受け取られていたことが印象的でした。「自分はステージ出演にあたって電気を使います。だから電気はなくてはならないもの。原発については色々な立場の人達が色々な意見を言うので、正直なところ何が正しいのか、今後どうすれば良いのかは分かりません。でも原発は人間が完全にコントロールできるものではなく、いざ事故が起きると大変恐ろしいことになるという事実は理解しています。」

発信者としての自覚

「福島から札幌へ移住された方が私の音楽を気に入って下さいました。とても嬉しく思った反面、果たして被災された方々の前で歌って良いのだろうかと考えてしまっ内容の曲も多々あり、

「曲の色彩が、命についての問いかけに変わる。人として認められるというのは、もしかすると、その問いかけへの答えを見つけないことなのかもしれない。そう思い始めたリスナーに、ボブは達観したような言葉でこう告げる。

「Yes, because, 風の中に舞う風」



ボブ・ディランの「Blowin' In The Wind」/風に吹かれて。1963年のアルバム「The Freewheelin' Bob Dylan」の1曲目に収録され世に出て以来、時代を超えて歌い継がれている彼の代表作の1つだ。ギターをかき鳴らしながら、ボブはこう歌い出す。

「人として認められるまで、
 どれだけの道を歩めばいいんだろう
 人として認められるってどうい
 うだろう。聴き手はそれぞれが通って
 きた道と、これから向かうまだ見ぬ未
 来の道を馳せる。百人いれば百通り
 の生き方がある。それぞれが歩む道も
 急な坂があったり、なだらかだったり、
 舗装されたものもあれば砂利道もある。
 途中で出会う人も人によって様だ。
 内省モードになり始めたリスナーに
 向けて、ボブはこんな風に言葉を続け
 る。

「弾丸を使うのをやめるまで、
 どれだけの数を打てばいいんだろう」
 「人々の苦しみが聞き届けられるまで、
 どれだけの涙が必要なんだろう」
 「多くの命が失われていることに気付く
 まで、どれだけの死があればいいんだ



「Blowin' In The Wind」 by Bob Dylan

戸惑う場面もありました。」

モモイさんが思い悩んだのは、例えば海を歌った曲や大切な人を失った悲しみを綴った曲でした。自分が歌うことで、聴く人を傷つけたりしないだろうか、と。この迷いは「ライブ&セミナー」への連続参加、そして2013年に実施した仙台ライブの際、三陸まで足を伸ばすという行動に結びついていきます。音楽というツールを用いる発信者として、モモイさんは自分の五感を使って事実を知るための行動に出たのだと思います。

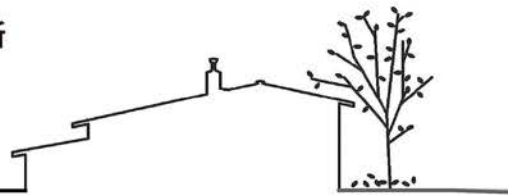
「私たち人間は、日々の営みの中で色々なことに遭遇し、喜怒哀楽を体験しています。そして社会の中で企業は経済活動を行っています。でもそれら



(株)フーム空間計画工房 一級建築士事務所

hu:mu

〒064-0944 札幌市中央区円山西町 10 丁目 4-17
 TEL. 011-613-5702 FAX. 011-613-5705



http://humu.jp
 humu@humu.jp